

1 平成27年6月
松戸駅周辺まちづくり基本構想
官舎跡地や松戸中央公園等を一体開発することにより、ランドマークとなる多機能拠点をつくる。

2 平成30年3月
新拠点ゾーン整備基本構想
「まつど・新・シビックコア」
・老朽化した公共施設の再編等によって、多世代、多様な市民が交流し、多彩な都市活動、市民活動、文化活動を創り出し発信する拠点を創る。
・施設の集積を図り、人々が集い楽しめる場所とし、公共施設、商業施設、公園が一体となった魅力ある空間をつくる。
・大規模災害の発生に備えた災害対策機能を充実。

3 令和3年1月 **新拠点ゾーン整備基本計画**

北側のゾーン
試みの場
=多様な暮らしを充実させる機能

中央のゾーン
オープンな場
=みどりを豊かに生かす機能

南側のゾーン
支える場
=暮らしの安全・安心を支える機能

多様な暮らしを充実させる機能をもつ「試みの場」
商業施設ほか、オフィス等の業務施設や、市民会館や図書館、美術ギャラリーなどの文化的機能の整備し、新拠点ゾーン全体に持続性のある賑わいを創出する。

みどりを豊かに生かす機能をもつ「オープンな場」
豊かなみどりを生かし、試みの場と支える場をつなぎ、新拠点ゾーンに一体感をもたらすとともに、多様な過ごし方ができる空間を創出する。

暮らしの安全・安心を支える機能をもつ「支える場」
人々のライフスタイルやワークスタイルの変化へ柔軟に対応することで、日常生活を総合的にサポートするとともに、非常時の災害対策拠点を整備する。

令和元年 MATSUDOING2050
～わたしがつくる！まつどのみらい～
「まちづくりワークショップ」全6回

参加者：高校生以上の松戸市在住者・在勤者・在学者（1～3回46名、4～6回51名）、松戸市役所若手職員（30名）

内容：・まつど全体の将来像 ・松戸駅周辺での過ごし方
・新しいライフスタイル・新しいサービスを提供する施設への期待（庁舎・文化施設・子育て施設など）
・これからの公共空間にふさわしい機能 等

[ポイント]
松戸駅周辺におけるまちづくりの方向性

- 1.松戸駅周辺のポテンシャルと生かし方
 - ・豊かな自然環境を生かしつつ、様々なアクティビティを展開。
 - ・受け継いできた歴史性を生かす。
 - ・用途を限定せず、多様な活動を柔軟に受け入れられる空間づくり。
- 2.松戸駅周辺で改善すべき課題
 - ・松戸駅近傍の官舎跡地が有効活用されていない。
 - ・松戸駅と新拠点ゾーンには約20mの高低差がありアクセスが不便。
 - ・松戸駅周辺では、商業・業務面において、まちの活力が薄れつつある。
 - ・気候変動や大地震など災害時の不安がある。

4 令和4年 新拠点ゾーン パブリックスペースから考える 松戸中央公園・相模台公園のリニューアル



ワークショップ-0
対象：千葉大学園芸学部学生と教員

R4.6

地元で学ぶ学生・教員（千葉大学園芸学部）が、新拠点ゾーンと松戸駅周辺地域の現状を把握・分析し、パブリックスペースのあり方を考える。
[ポイント]
・「つながり」 低地と台地をつなぐ動線の確保。斜面林を生かし、生物の生息地をつなぐエコロジカルネットワークの確保する。
・「一体的な利用」 新拠点ゾーン全体をシームレス、ボーダレスに利用することによって、多様な人々の交流や新たな体験が生まれる場所にする。



アンケート調査1
対象：公園利用者、近隣住民

R4.7

松戸中央公園・相模台公園の利用の現状と公園に対する要望について調査
・現地公園利用者アンケート（7/15～7/26実施）
・近隣住民無作為1,000人アンケート
・近隣小学校（相模台小3～6年）アンケート
[ポイント]
・散策や通行を目的に日常的に利用する人が多いが、積極的な公園の活用はあまりされていない。
・相模台公園は見通しが悪く、公園へのアクセスに難があることもあり、行ったことが無い人が多い。
・緑や花に対する評価、需要は高い。

ワークショップ-1.2
対象：近隣の小学生とその保護者

R4.9

地元の小学校の通う子どもたちがまちあるきをして調査をしたり、保護者の意見を聞きながら松戸駅周辺のまちづくりについて考える。
[ポイント]
・生きものや緑などの自然とより触れ合える体験ができるように、賑わいと緑を共存させたい。
・まちに賑わいをもたらすイベントを行うなど、多世代が交流できる空間づくりが必要。
・誰もが生活しやすいように、随所にユニバーサルデザインが施されたまちづくりをしたい。
・歴史を知る、学ぶ、楽しく快適な体験、四季に応じた自然を楽しむなどの記憶に残る体験を通して、まちへの愛着が醸成されると良い。

公園のリニューアルプラン

ワークショップ-4
対象：松戸駅周辺事業者、まちづくり団体、地元の大学生等

R4.12

賑わいに関わる市民と賑わいづくりの視点から、人々の交流を活性化させる新拠点ゾーンのまちづくりや公園のつかいかたについて考える
[ポイント]
・イベント等で利用ができるインフラ設備を整えたり、公園をより積極的に活用できる仕組みを整えることで、「やりたい」を「できる」に叶える拠点にする。
・駅から新拠点ゾーンへの動線を明快につなげる。
・大きな芝生広場を中心に設け、活動と賑わいの拠点を創る。
・日常利用を促進させ、災害発生時等の対策拠点としての活用がより有効になる。

ワークショップ-3
対象：地元町会自治会・地元の大学生等

R4.12

暮らしに関わる市民と日常生活の視点から、新拠点ゾーンのまちづくりや公園の使い方について考える
[ポイント]
・新拠点ゾーンに、「賑わい」と「落ち着き」の空間をつくるとともに、多様な使い方ができるようにする。
・既存樹木は、残すもの、植え直すものをしっかりと整理しながら、大事に継承したい。
・季節の彩りや生物などの自然環境にも配慮した植栽計画をつくる。
・公園を更に活用するために、松戸中央公園と相模台公園をつなぐ動線が欲しい。

アンケート調査2
対象：公園利用者、近隣住民、市内全域の市民

R5.1

新拠点ゾーンの公園に求められる機能や使い方について調査
・現地公園利用者アンケート（1/11～1/22実施）
・近隣住民無作為1,000人アンケート
・市内全域の市民無作為抽出3,000人アンケート
[ポイント]
自分にとって良い公園とは
・誰もがふらっと立ち寄り、みどりに癒される落ち着いた空間があり、また、多様な世代にとって過ごしやすく、交流できる場があること。
・運動やレクリエーションができる広場もあり、子どもが存分に遊べる空間があること。
まちにとって良い公園とは
・上記に加え、子育て時の利便性、防犯やユニバーサルデザインが重要。

